

平成30年度 授業改善推進プラン

5年

	児童の実態	学習指導の課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	具体目標	3月 成果と課題
国語	<p>○文章の構成を考えたり組み立てたりする力が十分に身に付いていない児童が多い。</p> <p>○主語・述語・修飾語、接続詞などの意味や使い方を正しく理解できていない児童が多い。</p>	<p>○心情を表す言葉や文章表現などに用いる語彙の獲得させていく必要がある。</p> <p>○発言を正しく聞き、その意図を理解してそれに対する自分の考えを構築することができるよう指導する必要がある。</p>	<p>○音読や、分からない言葉を辞書で調べる活動を多く取り入れ、語彙を増やしていく。</p> <p>○前後の文の関係や段落同士のつながり、接続詞や指示語などに着目し、文章を正しく読み取れるようにする。</p> <p>○ペア交流やグループ交流、全体交流を行い、互いの意見を聞き合う学習をどの単元にも意図的に取り入れる。</p>	<p>○教科書の言語指導単元や東京ベーシックドリルなどを活用し、語彙や言葉の意味、使い方などの習熟を図る。</p> <p>○物語のあらすじや要約文を書く時間を取る。</p>	<p>○段落や場面同士の関係や接続詞、指示語などに注目して文章の内容(筆者の考えや物語のテーマなど)を確実に読み取ることができるようにする。</p> <p>○自分の考えや思いを適した言葉を使って分かりやすく書けるようにする。</p>	
社会	<p>○資料から必要な情報を正しく読み取り、意図や背景、理由を解釈したり推論したりする力が弱い。</p> <p>○複数の資料を比較したり関連付けたりして読み取る力が弱い。</p>	<p>○グラフや図などから全体的な傾向を読み取らせ特微的な傾向に注目させる指導が不十分である。</p> <p>○複数の資料から分かったことを統合し自分の考えを書く時間を確保する必要がある。</p>	<p>○資料の提示の仕方を限定したり映像を活用したりして、考えさせたい内容を焦点化し、グループ交流や全体交流で深められるようにする。</p> <p>○板書や学習カードを工夫し、分類・比較・統合などの児童の思考を促す。</p>	<p>○ICTを活用して自分のテーマに沿って調べ、新聞やパワーポイントなどまとめ、発表する機会を設ける。</p> <p>○全体指導の中で考えさせたい表やグラフの内容について確認する時間を取る。</p>	<p>○映像や資料集などからさまざまな情報を獲得し、それらについて考察し、社会的事象について自分なりの考えをもつことができる。</p>	
算数	<p>○面積の求積の問題や資料の整理などの問題で、足りない情報を問題から読み取り活用する力が弱い。</p> <p>○数の性質や数列の法則を見出し、それを活用して計算する力が弱い。</p>	<p>○計算力について個人差が大きく、習熟を図る時間を確保する必要がある。</p> <p>○文章題や図形問題などで、注目すべき情報に気付かせる指導が不十分である。</p>	<p>○習熟度別学習形態や家庭学習などで段階に応じた計算の習熟を図る。</p> <p>○きちんと問題を読み、キーワードや関係を理解し解答するように指導する。繰り返し問題に取り組むことで、演算決定を確実にできるようにする。</p>	<p>○繰り返し計算問題に取り組む機会を増やすことで、計算の仕組みを理解させる。</p> <p>○図や数直線を活用することにより、問題文のイメージを確かにさせる。問題づくりを課題として出すことで、文章問題における問題場面の理解を図る。</p>	<p>○計算の仕方について正しく説明することができる。</p> <p>○文章問題では、演算決定を正しく行い、その理由を発表できる。</p> <p>○自分の考えと友達の考えの相違点に気付くことができる。</p>	
理科	<p>○自然事象について意欲的に調べようとする児童が多い。</p> <p>○基礎的な知識・技能の習熟について個人差がある。</p>	<p>○観察・実験から得た情報を比較したり自然事象の連続性について考えたりする指導が不十分である。</p> <p>○いくつかの事象を統合して自分の考えを書きまとめる時間を確保する必要がある。</p>	<p>○どの単元でも予想－観察・実験－考察という段階を繰り返すことで学習の見通しがもてるようにする。</p> <p>○考察についてよい書き方について全体で共有する。</p>	<p>○教科書の「資料」「科学のまど」やICTを活用して自然事象に対する興味関心を喚起する。</p> <p>○特に実験では早くできたグループには「追加実験」を行わせる場を設ける。</p>	<p>○自分なりの根拠をもって予想を立て、観察・実験を行う。</p> <p>○考察について友達のよい書き方を参考にしながら自分なりに書きまとめることができる。</p>	
家庭	<p>○日常生活に必要な技能・知識を意欲的に身に付けようとする児童が多い。</p> <p>○家庭での生活経験に個人差が大きい。</p>	<p>○特に裁縫の技能について個人差が大きく、習熟を図る必要がある。</p> <p>○評価の観点の創意工夫と、調理の技能の評価が難しい。</p>	<p>○手本を見せる、一緒に行う、教え合いの時間を取るなどして技能の習熟を図る。</p> <p>○学習カードや評価テストを工夫し、創意工夫について作品や児童の様子以外からも評価できるようにする。</p>	<p>○特に調理実習では、役割分担を明確にし、どの児童もいろいろな工程を年間で担当できるようにする。</p> <p>○ICTを活用してよい例を映像で提示したり実習の技能について記録したりする。</p>	<p>○それぞれの技能・知識の習熟を図り、学習したことを家庭生活に生かそうとすることができる。</p>	
体育	<p>○器械運動やボールを投げる・取るなどの基本的な技能に個人差が大きい。</p> <p>○勝敗の結果を素直に受け入れ、互いに励まし合ったり次に生かそうとしたりする態度に個人差がある。</p>	<p>○友達同士の教え合いやチームでの話し合いなどを経験させる指導が不十分である。</p>	<p>○学年を遡り、基礎的な技能を復習する時間を取り、易しい技能から習得しなおせるようにする。</p> <p>○技能の高め合いやチームでの話し合いなどの場面で、段階に応じて明確な視点を提示することで話し合いを焦点化させる。</p>	<p>○高い技能をもつ児童がその力を発揮できる場を設ける。</p> <p>○児童の話し合いの様子や学習カードの振り返りから意図的によい発言やかわりを取り上げ、全体で共有する。</p>	<p>○技能の差に関係なく互いに教え合い認め合って達成感や共感を得ながら運動を楽しむことができる。</p>	